

第 17 回 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に対する長崎大学の社会貢献 (3 月 12 日 木曜日)

こんにちは。

長崎大学人、河野茂です。

今日も泉川先生との対談から以下に記載します。

長崎大学は感染症研究の長い歴史を持ち、多くの感染症専門家が働いています。新型コロナウイルス感染症に関しても、長崎大学熱帯医学研究所は世界保健機構 (WHO) の指定する COVID-19 reference laboratories に日本で唯一指定されており、行政と連動して日々新型コロナウイルスの PCR 検査を行っています。

このような長崎大学の強みを活かし、新型コロナウイルス感染症の制圧に向けて我々はどのような貢献ができるのでしょうか。

感染症の制圧には予防と治療の両輪が必要不可欠です。長崎大学で診療の中心を担う長崎大学病院には、感染対策を専門とする感染制御教育センターと、感染症診療を行う感染症内科、呼吸器内科および小児科、そして診断に欠かせない検査部があります。長崎大学病院では疑い患者さんの診療や検査を日々行っており、確定患者さんの受け入れ準備も整えています。さらに新型コロナウイルス感染症拡大の危機に際し、各々が学外に対して様々な支援活動を行ってきました。ここでは長崎大学が行ってきた外部支援活動の一部を紹介します。

新型コロナウイルス感染症は当初中国の武漢市を中心にアウトブレイクを起し、日本はチャーター便による邦人の救出活動を実施しました。帰国した邦人は様々な宿泊施設に別れて約 2 週間の隔離、観察が行われ、その間の宿泊施設における感染対策支援を厚生労働大臣政務官の自見英子議員より私に相談がありました。

そこで長崎大学は 36 名の帰国者が宿泊されている千葉県柏市の財務省税関研修所別館の感染対策支援を担当することとし、2020 年 2 月 4 日から 2 月 15 日までの 12 日間、長崎大学病院から医師 7 名と看護師 1 名の計 8 名をリレー形式で派遣しました。宿泊施設では、内閣官房を中心に、厚生労働省、柏市保健所、自衛隊東部方面衛生隊、災害派遣医療チーム (DMAT) および災害派遣精神医療チーム (DPAT) が支援に入っており、献身的な活動が行われておりました。長崎大学は各々の活動全体における感染対策のアドバイスや

診療時の感染対策マニュアル作成，環境整備だけでなく，宿泊者の感染症に関わる不安に対してリーフレット作成や質問紙回答などを通じて支援を行いました。
幸いにも宿泊者の方々は全員検査陰性で無事に帰宅され，我々の活動も終了となりました。

その他にも，長崎大学病院のスタッフが日本環境感染学会災害時感染制御検討委員会（JSIPC-DICT）のメンバーとともに、ダイヤモンド・プリンセス号の感染対策業務について、乗員乗客の感染対策に対する助言や感染対策マニュアルの作成などにも協力をしました。

このように長崎大学の多くの感染症専門家が様々な貢献を行ってきました。
これらは長崎大学の強みを生かした大事な社会貢献となっています。

今回は長崎県で新型コロナウイルス感染症患者が発生した場合の長崎大学の受け入れ体制を紹介します。